

04

梯子坂：腰下ろしの階段道

（新宿区新宿）



梯子坂全景

□視点場の安定性

「尾の道に美あり」は、坂道の持つ視点場としての可能性を伝えていた。しかし現代の坂道、いや道路の難点は、車道がその殆どを占めていて、人がゆっくり歩く、ないしはおもむろに立ち止まっていられる余裕が無い点である。いかに優れた眺望があろうとも、そこに安心して留まることができることができなければ、眺めの価値の半分以上を失うことになる。

ゆっくりと味わうことのできる眺望景観。それが可能になる場の一つが、まちなかの階段道である。

一般的には都市開発や宅地開発の進展のたびに、不便な階段が失われることが多い。しかし、台地の端にある新宿区は、港区、文京区と並んでまだまだ階段道の多い地域である。歩行者のスケールでつくられた階段が、至るところで今も確かに生活道として活躍している。

入組んだ新宿七丁目のまちなかにある梯子坂もそんな坂道のうちの一つである。上り口に銭湯がある。風呂上りに階段に腰掛けて遠くのまちを眺めつつ、夜風に吹かれるがまま、ビール片手にさまざまを語り合う、豊かな都市生活がそこに見える。

眺望景観は、こうした生活像を伴って再発見されることで、守られていくはずだ。



梯子坂の頂から